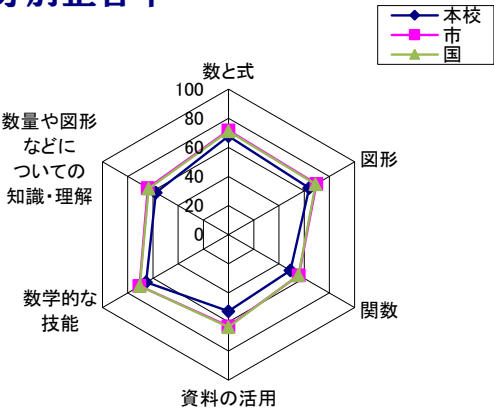


宇都宮市立宝木中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

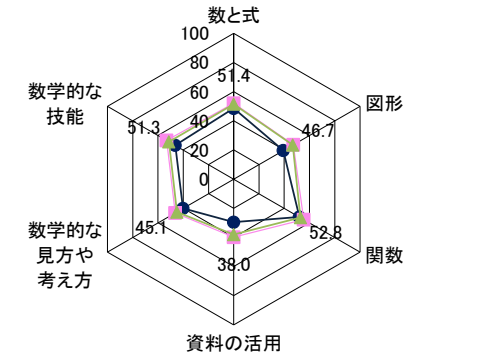
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	67.7	71.7	71.1
	図形	64.0	69.7	69.1
	関数	49.2	55.8	55.5
	資料の活用	52.6	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	65.4	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	57.6	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	48.6	52.0	51.4
	図形	39.3	47.3	46.7
	関数	52.0	55.4	52.8
	資料の活用	29.5	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	40.1	46.3	45.1
	数学的な技能	46.3	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は数学A、Bともに市、全国平均を下回っている。 ○ある基準に対して反対の性質や方向をもつ数量の表現力が身につく。 ●指数をふくむ正負の数の計算や、目的に合わせた等式変形の問題に対しては全国平均を下回っている。また、無解答率も高かった。	・指数をふくむ計算のみならず、分数・小数をふくむ計算の機会を増やし、計算方法に慣れさせていく必要がある。授業開始時に行っている計算練習の時間に取り組んでいく。 ・等式変形の指導にあたっては、式変形の目的を明確にした上で、等式の性質などの根拠に基づいて正しく変形しているかを確認しながら行っていく。
図形	平均正答率は数学A、Bともに市、全国平均を下回っている。 ○ある図形を回転させてできる回転体のイメージを持つことができつつある。 ●図形の面積や体積の求め方の理解に対して、全国平均を下回っている。 ●多角形を移動させたりしながら、角の性質を用いて、角度を求めることに課題が見られる。	・基本的な求積に関する公式の確認を、式の意味を理解しながら行っていく。 ・操作・実測といった活動を通して、錯角や同位角といった角度に関する用語の理解を深め、問題に活用できる力をつけていく。
関数	平均正答率は数学A、Bともに市、全国平均を下回っている。 ○グラフから必要な情報を読み取り、数学的に理解する力が身につく。 ●事象を数学的に読み取り、問題解決の方法を数学的に説明する問題に対し、全国平均を下回っている。また、無回答率も高かった。	・具体的な事象とグラフを関連付けて捉えることができるようにするために、2つの数量の変化や対応を調べる場面を設定する。 ・伴って変わる2つの数量の変化を、変化ごとに説明する場面を設定し、問題を理解させ、解決の方法を説明できるように練習をしていく。
資料の活用	平均正答率は数学A、Bともに市、全国平均を下回っている。 ●確率の意味や、求め方を問う問題に対し、全国平均を下回っている。	・全事象に対する、期待する事象を求める割合の考えを用いることを理解させ、確率を求めることが単なる技能の側面だけにならないように注意しながら指導を行う。